

# 水に溶ける油絵具

## 水溶性油絵具「デュオ」

「水彩画を描くような気軽さで油絵を描きたい」と思っている人は、意外と多いのではないだろうか。デュオは水で描ける油絵具。油絵具独自の盛り上げや筆のタッチが出せるだけでなく、それまで禁じられていた水性絵具（透明水彩絵具、ガッシュ、アクリル絵具）との混用を可能にした、画期的な水溶性油絵具です。水に溶けるといって、「本当の油絵具ではないのではないか」と疑う人もいますが、デュオはれっきとした油絵具。数パーセント界面活性剤が入っていることを除けば、今までの油絵具と全く変わりません。従来の油絵具同様にテレピン油やベトロールなどオイルで溶いて使うことができ、水でも油でも描けるとても便利な油絵具です。

## 水に溶ける仕組み

「水」と「油」は仲の悪いものの代名詞。デュオはなぜ溶けるのでしょうか？秘密は界面活性剤にあります。チューブから出したデュオに水を加えると、界面活性剤が油と顔料ごと絵具の粒子をくるみます。界面活性剤は水に馴染みややすい部分（親水基）と、水に馴染みにくい部分（疎水基）もった化合物です。外側が親水基、内側が疎水基でできた薄い膜で包まれた、小さなカプセルを想像するとわかりやすいのではないのでしょうか。カプセルの中には絵具の粒子が入っています。そのカプセルが無数に水中を浮遊している——これがデュオが水に溶けている状態です。ご存知のように、界面活性剤は石鹸の中に入っている成分。水では落ちない油污れが石鹸だと取れるの

は、界面活性剤が油の成分をくるんで水に溶ける状態にするからです。

## 表現・使用上の魅力

水で溶いたデュオは一種の混合テンペラ絵具。ハッチングを利用したテンペラ技法が簡単にできます。これはデュオの大きな魅力と言えます。油絵具より乾燥が早いのも特長です。ただ、水で溶いただけなら、普通の油絵具をテレピン油のみで描くのと同じ理屈になって固着力が下がります。この問題を解消するには、乾性油などを加えるとよいでしょう。水と混ぜられる専用のデュオ ペンチングオイル（界面活性剤入り）があります。同オイルは、従来の油絵具と練り合わせれば、水嫌いの油絵具がデュオのように水に溶けるようになるすぐれものです。これを用いれば、艶と固着力を保ちながら、水をベースに制作できます。

現在デュオは80色。鉛やカドミウムといった、人体に有害な顔料を使っていません。揮発性油を用いずに油絵が描けるので、呼吸器系が弱い人でも安心して使える、人にやさしい油絵具です。筆やパレットなど用具類が水洗いできるのも魅力です。ただし、筆の毛の奥などに微量の顔料や乾性油が残ることがあります。制作後には専用のデュオブラシクリーナー（水性）で洗浄することをお薦めします。



アクア オイル カラー【デュオ】

holbein

ホルベイン絵具

ホルベイン絵具に関する  
ご質問・ご相談は…

ホルベイン絵具 技術サービスセンター TEL.0729 (85) 1223  
〒579-8063 東大阪市横小路町4-10-52  
電話受付時間/9:00~16:00 月~金曜日(祝日を除く)